

セグメント別概況

アセットマネジメント事業

2009年3月期の業績

アセットマネジメント事業は、株式等投資関連事業と投資顧問・その他事業の2つの事業から構成されています。株式等投資関連事業は、IT、バイオ、ブロードバンド、メディア、モバイル関連等のベンチャー企業及びリストラクチャリングを必要とする企業等への投資を行っています。また、投資顧問・その他事業は、主に投資信託の管理等を行っています。

2009年3月期におけるアセットマネジメント事業の売上高は、前期比72%減の160億円となりました。これは、新規上場企業数が前期より大幅に減少したことが主な理由であり、営業利益は前期比84%減の26億円となりました。同業他社が軒並み営業赤字を余儀なくされる状況にありながら、私たちが営業黒字を堅持できたのは、New Horizon Fundが収穫期に入り、営業利益として46億円が貢献があったことによります。

新規上場マーケットのさらなる低迷

2009年3月期は、前期からの国内株式市場の低迷が加速し、国内の新規上場企業数は全市場合計で34社と前期の99社を大幅に下回り、国内新規上場マーケットはさらに低迷しました。

また、新規上場企業の減少は日本だけではなく、世界的にも激減しており、その上場企業数は前期の約26%の559社、資金調達額は約19%の550億USDルにとどまりました。

主要VC各社のトラックレコード比較(償還済ファンド)

	JAFCO			SBIグループ			大和SMBCキャピタル		
	設立年	ファンド名	IRR	設立年	ファンド名	IRR	設立年	ファンド名	IRR
1990年代 設立ファンド	1991年	JAFCO R1 (A) (B)	1.2	1995年	ソフトベン2号投資事業組合 ^{*1}	20.4	1990年	NIF8号	3.4
	1991年	JAFCO G5	4.2	1996年	ソフトバンクベンチャーズ SV Angel'96利益参加型社債 ^{*2}	20.5	1990年	NIF9号	0.5
	1992年	JAVP2	3.2		1991年	NIF10-A	3.0		
	1992年	JAFCO R2	4.4	1997年	ソフトバンク・コンテンツファンド	5.0	1991年	NIF10-B	3.0
	1995年	JAFCO R3	12.9				1991年	ML-NIF1	5.4
	1995年	JAFCO G6 (A) (B)	10.9				1992年	NIF11号	1.9
	1997年	JAFCO G7 (A) (B)	6.2						
平均IRR			6.1			15.3			2.9
2000年代 設立ファンド	2000年 ^{*3}	JATF	0.9	2000年	ソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンド	6.5			
	2004年	JAFCO MBO2	6.4	2001年	SBI・LBO・ファンド1号	18.3			
	2005年	JATF III	11.3	2002年	企業再生ファンド1号	25.7			非開示
				2002年	ブイアール企業再生ファンド	27.7			
平均IRR			6.2			19.6			

各社のIR資料をもとに作成。IRRの数値については各社のIR資料からそのまま転記。

*1 ソフトベン2号の当時のGPは現SBIインベストメント株式会社であるソフトバンク・インベストメント株式会社。

*2 ソフトバンクベンチャーズ SV Angel'96の当時のGPは現SBIインベストメント株式会社であるソフトバンク・ベンチャーズ株式会社。

*3 2000年代に設立されたJAFCOのファンドは現在運用中のファンド。参考として掲載。

*4 JAFCOのファンドで、IRRがマイナスのものは控除。

このような状況も影響し、SBIグループの投資先企業は、当初計画していたIPOを延期する等しており、その結果、2009年3月期においては海外の投資先を含めIPOはありませんでした。

引き続き高水準を維持する投資実行額と高い運用パフォーマンス

SBIグループの運営するファンドは、IPOを目指すベンチャー企業への投資にとどまらず、SBIキャピタルが運営するファンドを通じて、すでに新興市場に上場している中規模の優良企業や成長性の高い企業を対象としたバイアウト投資等も行っています。

当社は、厳しい環境が続き株式市場が低迷している時期こそ、投資を実行する上では好機であると捉えています。そのため2009年3月期における投資実行額は、SBIグループの運営するファンドによる投資として820億円、直接投資として132億円の合計952億円、投資会社数は合計118社となり、2008年3月期の合計1,010億円に引き続き高水準を維持しています。

また、下記テーブルのように、SBIグループが運営するファンドは高い運用パフォーマンスをあげており、我が国の他の主要ベンチャーキャピタル各社を大きく上回る結果を残しています。

アセットマネジメント事業は、これまでに培った信用力・ブランド力に加え、国内外の有力パートナーとの提携等を拡充しています。日本においては、IT・バイオ分野に加え、環境・エネルギー分野にも投資領域を拡大する一方、アジア諸国を中心に海外にも進出しています。

ファンド運用規模

2009年3月期のグループ運用資産総額は、前期比1,336億円減の4,935億円となり、そのうち、プライベート・エクイティは2,412億円となりました。

New Horizon Fundの状況

New Horizon Fundについては、2005年5月の運用開始以降、2009年3月期までに投資先10社のうち6社が上場しており、中国株式市場が低迷した時期においても十分な含み益を有しています。2009年3月期は一部を売却したこと等もあり、46億円の営業利益を計上しました。

2009年に入り、中国株式市場は急速に回復しつつあり、2010年3月期第1四半期においてはすでに1社が上場しました。このような状況を踏まえ、2010年3月期は受領分配金額として81億円(2009年7月28日現在)を予想しており、マーケットの状況によって、分配金の増加が期待されています。

New Horizon Fundの運用状況

(単位:百万USD)

投資先名	投資残高	種類	IPO/M&A 予定	キャピタルゲイン			
				2008年3月末	2009年3月末	7月28日現在	
Sichuan Meifeng Chemical Industry	11.2	A株		63.7	26.4	34.0	IPO済 時価評価
Changsha Zoomlion Heavy Industry Science & Technology Development	4.4	A株		144.6	66.6	64.0	
China Printing & Dyeing Holding	-	普通株		0.2	-	- ^{*1}	
Yingli Green Energy Holding	-	普通株		4.5	-	-	
Kingsoft	-	普通株		2.3	4.4	-	
Goldwind Science and Technology	0.5	A株		124.9	29.9	15.5	IPO/M&A未済 予想評価
China Cord Blood Services Corporation	4.1	普通株		17.6	17.6	12.0	
Jiangsu Ealong Biotech	2.5	プレM&A	2010	5.6	5.6	5.6	
Shineway Group	20.4	プレIPO	2010	15.0	15.0	15.0	
Cathay Industrial Biotech	12.0	プレIPO	2011	79.1	79.1	79.1	
合計	55.1			457.5	244.6	225.2	

【受領分配金額】^{*2} (単位:億円)

【2010年3月期以降の見積額】(2009年7月28日現在の見込)

設立~2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2010年3月期以降の 総分配見積額
9	61	81	28	32	141

注:分配見積額は、現在及び将来上場もしくは売却する株式の予想時価から見積もった金額で、これらの金額が確定しているわけではありません。

*1 清算中

*2 売却額より売却に付随する費用を差し引いた額

当事業の主要企業

企業名	事業内容
SBIインベストメント(株)	ベンチャーキャピタルファンド等の運用・管理
SBIキャピタル(株)	バイアウト・バリュアアップファンド等の運用・管理
SBIキャピタルソリューションズ(株)	メザニンファンド等の運用・管理
SBIアセットマネジメント(株)	金融商品取引法に定める投資運用業及び投資助言業
SBI VEN CAPITAL PTE. LTD.	海外における投資事業

グループ運用資産総額の状況

2009年3月末現在4,935億円
(住宅不動産関連セグメント等を含む)

(単位:億円)

プライベート・エクイティ	2,412	【環境・エネルギー】	68
【IT・バイオ等】	合計 1,205	【バイアウト・メザニン】	合計 352
インターネット	67	バリュアアップ	192
ブロードバンド・メディア	573	メザニン [*]	160
モバイル	277		
バイオ・その他	287		
【直接投資】	251	【海外】	合計 536
		中国・香港・その他 [*]	359
		ベトナム	82
		インド	96
【投資信託等】	合計 1,947	【不動産等】	合計 576
投資信託	310	開発物件	224
投資顧問	1,615	稼働物件	352
投資法人	22		

不動産は投資総額、投資信託、投資顧問等は2009年3月末の時価純資産、その他ファンドは2009年3月時点の各ファンドの直近決算に基づく時価純資産で記載。億円未満は四捨五入。
*決算期を迎えていないものについては、出資約束金額ベースで算出。

ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業

2009年3月期の業績

2009年3月期のブローカレッジ&インベストメントバンキング事業は、証券関連事業と商品先物関連事業の2つの事業から構成されていました。証券関連事業は、証券売買取引等の受託、新規公開株式の引受け・売出し、株式等の募集・売出し等の取扱いを行っています。また、商品先物関連事業は、商品先物取引の受託を行っていましたが、2009年7月末をもって業務を廃止しています。

2009年3月期におけるブローカレッジ&インベストメントバンキング事業の売上高は、前期比28%減の492億円となりました。こ

の売上高のうち486億円は証券関連事業によるもので、主にSBI証券及びSBIリクイディティ・マーケットで計上されました。また、商品先物関連事業における売上高は6億円で、SBIフューチャーズで計上されました。

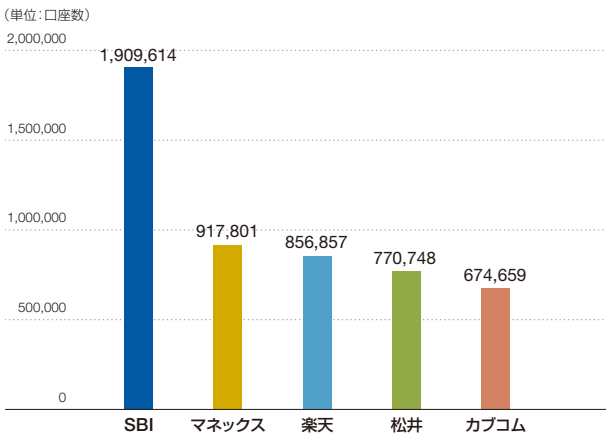
圧倒的顧客基盤を背景にシェアを拡大するSBI証券

厳しい経済状況にもかかわらず、主要オンライン証券5社の口座数は順調に増加しており、SBI証券は、2009年3月期において206,123口座の新規口座を獲得しました。

また、個人株式委託売買代金が低迷している中においても、主要オンライン証券5社の個人株式委託売買代金に占めるシェアは引き続き拡大しており、2009年3月期通期における5社合計のシェアは73.2%となりました。その中でSBI証券も着実にシェアを拡大しており、2009年3月期通期では個人株式委託売買代金全体の38.7%となりました。

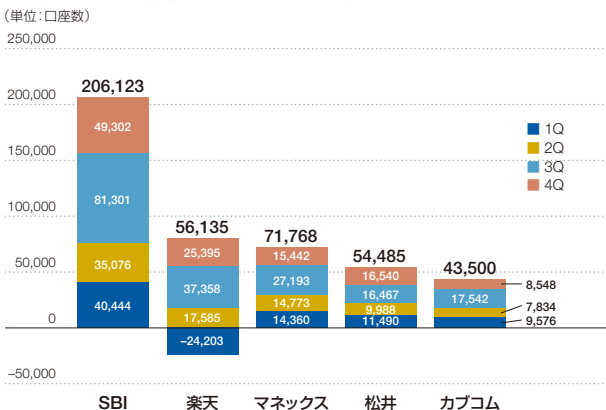
機関投資家や外国人からの委託を含む株式委託売買代金全体においても、SBI証券は2009年3月期第4四半期に11.6%のシェアを有しており、2005年3月期第4四半期に野村証券を抜いて以降、対面証券を含めた国内全証券会社の中で、四半期ベースで17期連続でシェア第1位の地位を維持し続けています。

主要オンライン証券5社の口座数 (2009年6月末)



出所：各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

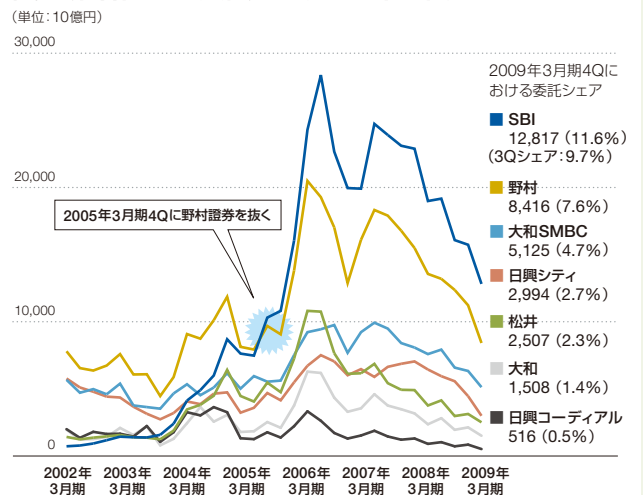
主要オンライン証券の獲得口座数比較 (2009年3月期)



出所：各社ホームページ等公表資料より当社集計

※1楽天証券は2008年6月に一部口座を閉鎖し、開示基準を開設ベースに変更
 ※2松井証券は2008年12月に一部不稼働口座(11,140口座)の閉鎖を実施

証券会社各社の株式委託売買代金の四半期推移



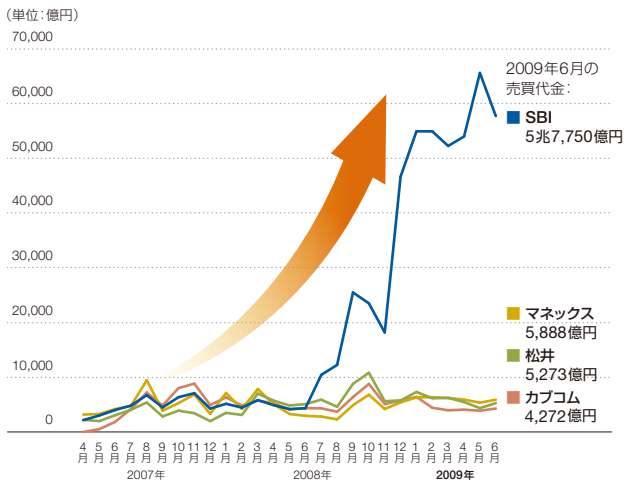
出所：証券会社各社・東証の公表数値をもとに当社作成 (SBI証券分には海外投資家からの注文を含みます)

顧客中心主義を徹底し、「業界最低水準の手数料体系と業界最高水準のサービス」を提供し続けるSBI証券は、日本国内で初めてとなる「リアル Based on ネット証券」という新たなビジネスモデルの構築を追求しながら、ブローカレッジにおける圧倒的シェアを背景に、顧客口座数の拡大が続いています。

開業4ヵ月で大きく収益に貢献した SBIリクイディティ・マーケット

SBIリクイディティ・マーケットは、外国為替証拠金(FX)取引におけるリクイディティ(流動性)を担保し、利便性を高めたマーケットインフラを、証券会社をはじめ金融商品取引業者等に提供する目的で2008年11月17日に営業を開始しました。2009年6月末においては、シティバンク銀行や三菱東京UFJ銀行をはじめとする国内外の金融機関13社をカウンターパーティとして、SBI証券ならびにSBIフューチャーズの顧客に対して競争力のあるFX取引を提供しています。今後も、住信SBIネット銀行のほか、グループ外の金融機関も接続する予定であり、取引量のさらなる拡大が期待されます。

オンライン証券4社のFX売買代金推移



※1 データが開示されているSBI証券、マネックス証券、松井証券、カブコム証券の4社
 ※2 2008年11月～2009年2月は、「SBI FX」及び「SBI FXα」の売買代金合計
 出所:各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

昼間取引を開始したSBIジャパンネクスト証券

SBIジャパンネクスト証券が運営するジャパンネクストPTSは、公共性の高い私設取引システム(PTS: Proprietary Trading System)として、2007年8月の夜間取引開始に引き続き、2008年10からは昼間取引を開始したことで、売買代金は大きく拡大し、2009年6月の月間売買代金は1,492億円と過去最高を更新しています。これは、高性能の取引システムと昼間取引における呼値の刻みを東証の10分の1以下にしていることから、市場ごとに異なる売買価格の中で、有利な価格で取引が可能となるジャパンネクストPTSの認知が進んでいることによります。今後、最良執行の流れはますます加速すると考えられることから、高性能取引システムと小さな呼値の刻み等の特徴を有するジャパンネクストPTSへの取引参加者の増加、流動性の向上により、取引量はさらに拡大すると期待されます。

収益源の多様化

ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業においては、さらなる成長を実現するために引き続き商品・サービスの向上を図るとともに、収益源の多様化を進めていきます。

特にSBI証券では、SBIリクイディティ・マーケットやジャパンネクストPTSのほか、金融商品の評価情報等の提供を行っているモーニングスターや投資信託に特化した金融商品仲介事業を行うSBIファンドバンク等、グループ内外の企業とのシナジー効果を最大限に発揮させ、収益力の強化を図っていきます。

当事業の主要企業

企業名	事業内容
(株)SBI証券(2008年7月1日にSBIイー・トレード証券(株)より商号変更)	オンライン総合証券
SBIリクイディティ・マーケット(株)	外国為替証拠金取引に関わる市場機能、サービスの提供
SBIフューチャーズ(株) (2009年8月1日をもってSBIホールディングス(株)の完全子会社化)	オンライン商品先物取引業 (※2009年7月31日をもって商品取引受託業務を廃止)
SBIジャパンネクスト証券(株)	私設取引システム(PTS)運営
SBIファンドバンク(株)	投資信託に特化した金融商品仲介業

ファイナンシャル・サービス事業

2009年3月期の業績

ファイナンシャル・サービス事業は、マーケットプレイス事業などの既存事業及び新規事業から構成されています。

2009年3月期におけるファイナンシャル・サービス事業の売上高は前期比1%増の226億円となり、営業利益は前期比76%増の15億円となりました。新規事業の赤字が前期比で9億円縮小(ネット生損保事業6.6億円、カード関連事業2.7億円改善)したことが営業利益の増加に寄与しました。

既存事業

上場子会社 各社連結業績

(単位:百万円、()内は前期比増減率%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
モーニングスター* 2009年3月期	2,792	323	406	247
SBIベリトランス 2009年3月期	4,402 (+18.8)	921 (+21.5)	942 (+23.3)	561 (+25.0)

* モーニングスターにつきましては、前期は決算期変更に伴い、2007年1月1日から2008年3月31日までの15ヵ月間となっております。このため、前期比増減率は記載しておりません。

■ 多様な金融商品の評価情報等を提供する

「モーニングスター」

国内外2,700本を超える投資信託評価情報等を提供するモーニングスターは、連結では子会社ゴメス・コンサルティングの金融機関向けの受注減による不調等により、前期比で減収減益となりましたが、単体ではレポートやIR・投信・株価情報データの販売等が増加し、売上高が前期比で90.4%増の23億円、当期純利益は同11.5%増の3億円と大幅な増収増益となりました。

2008年7月より開始した動画配信サービスは、2009年3月末までの累計閲覧回数は9ヵ月間で20万回超となり、同年6月末現在では32万回超となるなど、急速に閲覧数を伸ばしています。

さらに、2009年4月より有料でのモバイル配信を開始し、最新の個別株式やファンド情報に加え、世界の市況や為替動向など、資産運用に有益な情報を毎日100本以上配信し、ユーザー数は着実に増加しています。

ビデオレポートの動画配信

日米のモーニングスターの記者やアナリストが、経済動向、株式市況、個別銘柄、投信概況等を動画で解説。

モーニングスター ビデオレポート
http://www.morningstar.co.jp/news/video/



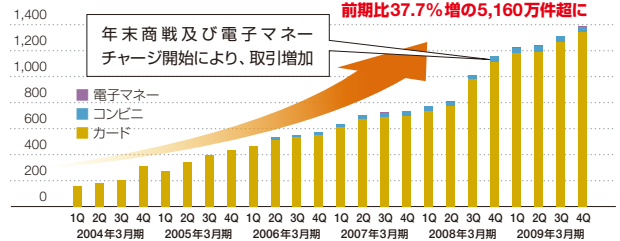
■ 急拡大するEコマース市場の発展とともに成長を加速させる「SBIベリトランス」

オンライン決済ソリューションを提供するSBIベリトランスは、国内インターネット市場やEC市場の順調な拡大等を背景に順調に成長を続け、通期連結決算は、営業利益、当期純利益ともに前期比20%超の増益となりました。

また、前期に開始した「モバイルSuica」「モバイルEdy」の電子マネーチャージの取り組みによりビジネス領域が拡大し、2009年3月期のトランザクション件数は5,160万件超(前期比37.7%増)と、順調に増加しました。

SBIベリトランス トランザクション件数の推移

(単位:万件)



なお、中国を中心に海外展開を加速させており、中国本土の消費者向けに、日本で初めてインターネット通販での銀聯カード決済の取り扱いを開始しました。また、翻訳から物流まで中国人向け通販に必要な業務をトータルで支援する、銀聯ネット決済に対応したECモール「バイジェイドットコム(佰宜杰.com)」を2009年4月より本格的に稼働開始しました。



バイジェイドットコム(佰宜杰.com)
http://www.buy-j.com/shop/

インターネット金融サービスのラインアップを幅広く拡充するファイナンシャル・サービス事業では、株式市況のみに立脚しない収益体質の構築を目指して、新たな事業の柱として開業したネット銀行、ネット損保、ネット生保を早期育成し、グループ内企業とのシナジー効果を一層発揮させることにより、安定的収益部門としてさらなる収益向上への貢献を図っています。

■ 順調に成長を続けるマーケットプレイス事業 (SBIホールディングス)

金融分野で国内最大級の比較・見積もりサイトに成長した「インズウェブ」や「イー・ローン」等を中心に各種金融系サイトを運営するマーケットプレイス事業では、「インズウェブ」における自動車保険の見積もり件数が前期比12.3%増と堅調に推移し、これらを含む金融系サービスサイト(8サイト)の取引ユーザー数*は、同4.6%増の92万9千件となり、引き続き過去最高を更新しました。これらの結果、2009年3月期におけるマーケットプレイス事業の売上高は前期比11%増の47億円となりました。

※ サイト上で実際に見積もり、資料請求、仮申込等の取引を行った数。

中立的な立場で国内最大規模の金融商品比較サイトを運営

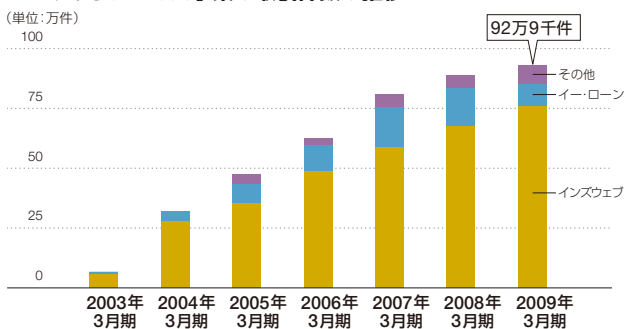


「保険の窓口インズウェブ」
損保23社・生保20社が参画



「イー・ローン」
金融機関数67社、ローン商品数546

マーケットプレイス事業の取引件数の推移



当事業の主要企業

企業名	事業内容
当事業部(ファイナンシャル・サービス事業)	保険やローンなど各種金融系比較サイトの運営
モーニングスター(株) 大証ヘラクレス(Code:4765)	投資信託を主体とした金融商品の評価情報の提供
ゴメス・コンサルティング(株) 大証ヘラクレス(Code:3813)	ウェブサイトの評価・ランキング・ビジネス支援
SBIペリトランス(株) 大証ヘラクレス(Code:3749)	電子商取引(EC)事業者向けオンライン決済サービスの提供
住信 SBIネット銀行(株)	フルバンキングサービスを提供するインターネット専門銀行で、住友信託銀行(株)と共同出資
SBI損害保険(株)	インターネットを主軸とした損害保険会社で、あいおい損害保険(株)他と共同出資
SBIアクサ生命保険(株)	日本初のインターネット専門生命保険会社で、アクサ ジャパン ホールディング(株)他と共同出資
SBIカード(株)	マスターカードブランドの「SBIワールドカード」の発行等、クレジットカード関連事業

新規事業

2007年9月に営業を開始した住信SBIネット銀行は、2009年3月期に預金残高6,299億円(2009年7月末現在7,115億円)、口座数は41万8千口座(同51万口座)、第4四半期には四半期ベースで黒字化を達成する等、計画を大きく上回って進捗しており、目標としている2010年3月期の単期黒字化の達成と、その実現に伴う持分法による投資損益(営業外損益)の大幅な改善が期待できる結果となりました。

2008年1月に営業を開始したSBI損害保険は、同年3月の保険料の引き下げや同年8月のウェブサイトリニューアル、新たなチャネルの拡充等により、自動車保険の年間成約件数は4万2千件(2009年7月末現在累計6万8千件)となりました。

2008年4月に営業を開始したSBIアクサ生命保険は、同年10月より定期保険において高額割引制度を導入したほか、2009年3月より新商品の収入保障保険の販売を開始する等、サービスの向上や知名度の向上に努め、成約件数の増加を図っています。

マスターカードブランドの各種SBIカードを発行するSBIカードは、業界トップクラスの高機能カードの強みを活かし、カード発行枚数は発行開始後2年4ヵ月で4万7千枚超となっております。なお、2010年3月期中を予定しているVISAカードブランドでのSBIカードの発行とあわせてさらなる顧客基盤の拡大を図る計画です。

これらの結果、2009年3月期における新規事業の売上高は前期比219%増の10億円となりました。

住宅不動産関連事業

2009年3月期の業績

住宅不動産関連事業は、不動産事業、不動産金融事業及び生活関連ネットワーク事業の3つの事業から構成されています。

2009年3月期における売上高は、国内不動産市況の低迷を受けて前期比46%減の409億円となりました。また、営業利益は、セムコーポレーションの販売不動産評価損と貸倒引当金を計上したこと等も影響し、前期比89%減の9億円となりました。

不動産事業(SBIホールディングス他)

ファンド等の投資家向け物件の供給を目的とした不動産開発等を行う不動産事業の売上高は、2008年3月期に年間を通じて物件の売却を進めた反面、2009年3月期は予定していた物件の売却が第1四半期末までにほぼ一巡したため、前期比67%減の184億円となりました。今後も売却可能な物件については順次売却を進める一方、不動産市況の低迷が続いていることから新規投資は抑制しておりますが、今後の再開については、市況の動向を鑑みながら慎重に検討していきます。

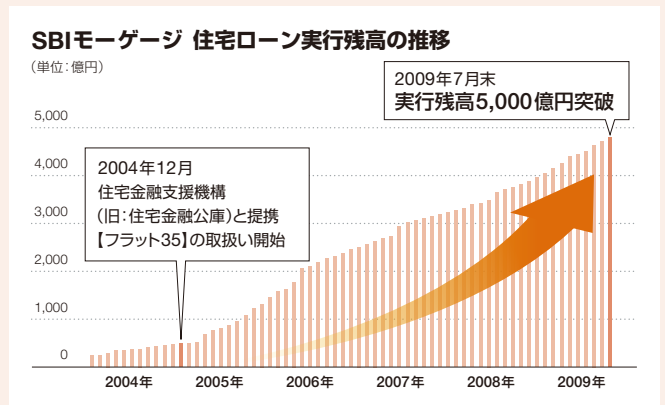
不動産金融事業(SBIモーゲージ他)

2001年に日本初のモーゲージバンクとして誕生したSBIモーゲージは、住宅金融支援機構との提携による長期固定金利の住宅ローン商品「フラット35」を、業界最低水準の金利(2009年7月融資実行金利2.62%)で提供し続けており、融資残高を順調に積み上げております。2009年3月末には実行残高は4,639億円(同年7月末現在5,013億円)となっており、「フラット35」におけるシェアは2009年6月においては取扱金融機関339社中で第1位となる

19%*を占めています。

これらにより、不動産金融事業の2009年3月期の売上高は、前期比17%増の79億円となりました。

* 保証型を含む融資実行ベース。当社調べ。



生活関連ネットワーク事業

生活関連ネットワーク事業は、あらゆる商品やサービスの比較・検索・見積もりサイト等の運営、美容健康食品及び服飾品等の販売・サービス等によって構成されており、運営する生活関連サイト(6サイト)の取引件数*合計は前期比33.4%増の38万件超と大幅に伸長するなど、大きな成長を見せました。2009年3月期における売上高は、前期比11%増の147億円となりました。

なお、2009年7月1日付で、SBIホールディングスの生活関連事業の一部をSBIライフリビングに移管しました。SBIライフリビングは従来の不動産開発事業にインターネットを活用した生活関連事業を融合することで、ネットワーク価値を訴求する新たな事業モデルの構築と、収益の多様化による事業規模の拡大を図っていきます。

* サイト上で実際に見積りや売買取引等を行った数。

当事業の主要企業

企業名	事業内容
当社事業部(不動産事業本部)	主として国内外の不動産投資・開発事業
当社事業部(生活関連ネットワーク事業本部) (2009年7月1日にSBIライフリビング(株)に事業譲渡)	あらゆる商品・サービスの比較・検索・見積もりサイト等の運営
SBIモーゲージ(株)	証券化を前提とした長期固定金利住宅ローンの提供等
SBIライフリビング(株) (2009年7月1日に(株)リビングコーポレーションより商号変更)	投資用収益物件の開発、販売、企画・設計業務の提供
SBIプランナーズ(株)	建築工事業、建築物の設計・監理業、不動産の取引等
(株)セムコーポレーション	不動産を担保にした個人及び法人向け融資事業

システムソリューション事業

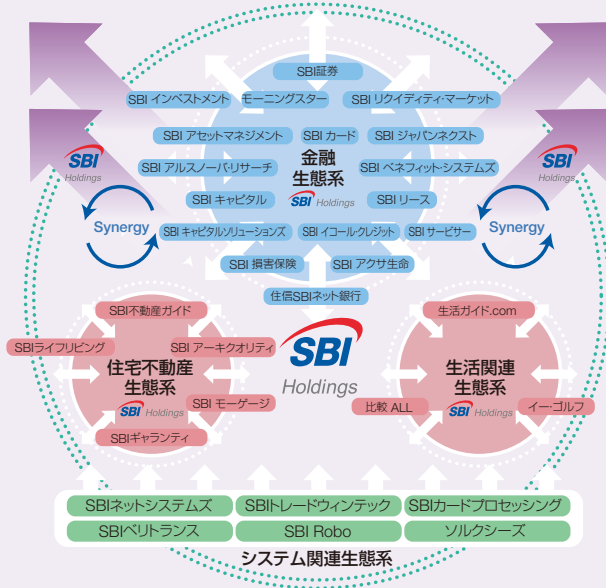
2009年3月期の業績

2009年3月期におけるシステムソリューション事業の売上高は、64億円(前期は3億円)となりました。当事業の売上高は、主にSBIネットシステムズで計上されたもので、受託開発及び運用・保守業務等が順調に推移したこと等を背景に、前期比で売上高が増加し、営業損失幅が縮小しました。

ネット金融を支えるシステム関連生態系を強化

SBIグループは、さまざまな金融商品・サービスを、インターネットを主要なチャネルとして提供しており、システム・ソフトウェア関連の重要性が非常に高いため、グループ内企業のシステム構築・維持管理に大きく貢献するシステム関連生態系の形成を目指しています。

ネット金融を支えるシステム関連生態系



システム関連生態系の中核となるSBIネットシステムズ

SBIネットシステムズは、SBIテクノロジーやSBIトレードウィントックを子会社として、従来の情報セキュリティ事業に加え金融システム開発へ事業領域を拡大しており、金融システムのトータルソリューションプロバイダーとしてシステム関連生態系のコア企業を目指しています。

■ 実名登録のビジネス系専用SNS「SBI Business」

<http://www.sbibusines.com/>

SBI Roboが運営する「SBI Business」は、実名で登録し、自分自身でプロフィールを作成・公開することで、自分SEOを行いビジネスパーソンの人脈拡大・管理を支援するビジネス専用のSNSです。2008年1月のサービス開始以降、登録会員数は順調に増加し、2009年6月現在で9万人を突破しました。



当事業の主要企業

企業名	事業内容
SBIネットシステムズ(株) 東証マザーズ(Code:2355)	C4暗号技術・秘密分散技術・電子透かし技術の研究・開発、情報セキュリティ製品の提供

その他のSBIグループ ウェブコミュニティ関連サービス

■ SBIファイナンスポータル

<http://www.sbifinance.jp/>

SBIグループの証券・銀行・保険等の金融サービスに関する情報を一元的に提供する金融ポータルサイトを、目指して2009年1月に開設しました。難しくなりがちな金融の話をつかりやすく伝えていくことで、多様なお客様のマネーライフを支援します。



■ 金融に特化したコミュニティサイト「SBIマネーワールド」

<https://www.sbi-com.jp/>

2007年4月よりサービスを開始したコミュニティサイト「SBIマネーワールド」は、コンテンツを大幅に拡充し、2009年6月現在で登録会員数は約9万人となり、国内最大規模の金融に関する知識共有型SNSへと発展しつつあります。

